CITY OF NAGASAKI

メッセージ

このたび、「国分寺市平和祈念式」の開催を迎えるにあたり、長崎市民を代表してメッセージをお送りします。

貴市におかれましては、平和祈念式や平和祈念行事の開催など、市民の平和意識の高揚に向けた様々な事業に取り組まれていることに心から敬意を表します。

1945年8月9日午前11時2分、長崎の街は一発の原子爆弾により、一瞬にして壊滅的な被害を受け、24万人の市民のうち15万人が死傷しました。辛うじて生き残った人も心と体に深い傷を負い、被爆から79年が経過しようとしている今なお、多くの方々が放射線による後障害に苦しんでいます。

原爆による悲惨な体験を、世界中の誰にもさせないために、被爆者をはじめとする長崎市民は「核兵器のない世界」の実現を訴え続けています。

世界に目を向けますと、ロシアによるウクライナ侵攻が未だ収束の目処が立たない中で、中東における軍事衝突が深刻化し、私たちが目指す核兵器のない世界への道は険しさを増すばかりか、再び使用される脅威が一段と高まっています。

戦争や核兵器の問題は、国同士のもので、私たち市民社会にはあまり関係のないことと捉えられがちです。しかし決してそうではありません。こうした混沌としたときだからこそ、一日も早い核兵器のない世界の実現に向けて、私たち市民社会が力を合わせて声を上げ、世論の大きなうねりをつくっていくことが重要です。

だからこそ、本日の「国分寺市平和祈念式」のような取組みを通して多くの人と平和への思いを共有することは大きな意義があると確信しています。

これからも、同じ志を持つ大切な仲間として、互いに連携しながら、そして次の世代にバトンをつなぎながら、核兵器のない世界の実現に向けて、長崎市民とともに歩まれることを祈念します。

最後に、主権者の皆様方をはじめ、本日ご参加の皆様の今後ますますのご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げます。

令和６年８月１５日

長崎市長　鈴木　史朗